

挑む!

「エビとカニの水族館」館長代理

平井 厚志さん(33)



仲間のエビ・カニと 次の脱皮へ

好きな食べ物にエビやカニを挙げる日本人は多いが、この人は別格。「60種類ほど食べました。来館者から一番多い質問が、『食べられますか』『おいしいですか』なのですから」

紀伊半島南部、イセエビ漁の盛んな和歌山県すさみ町。「町立エビとカニの水族館」は、約150種のエビやカニなど甲殻類を中心に展示している。

甲殻類の飼育・研究のエキスパート。海外に珍種を買い付けに行くこともあれば、エビとカニを連れ出して出

香川県出身。日本海洋科学専門学校（大阪市）で学び、2004年、21歳で和歌山県すさみ町立エビとカニの水族館へ。10月から館長代理を務める。

張展示することもある。「小さい生き物が多いのでどこにでも行けるのが強みです」。昨年5月、中国の北京海洋

館から頼まれ、イセエビやタカアシガニを持ち込み、飼育技術を指導した。

話題づくりの仕掛け人でもある。今年には甲殻類のフナムシをフタのない水槽に集めた。脱走を想定し、「WAN TED」と書いた紙を壁に貼った。

「水槽の外でお客さんが見つけたら面白いと思って」。こうした取り組みはネット上でも話題を集めている。

水族館は昨年9月、近くの道の駅の敷地内に移転し、好立地が奏功して年間約3万人だった来館者が約9万人に飛躍。自称「日本一貧乏」だった水族館が一気に「脱皮」した。「エビとカニの仲間」は約1万種。生き物も人もまだまだ集めたい」と次の脱皮を目指す。

文・写真 土井恵里奈

記者から

地味に見える甲殻類のドラマチックな日常を語ってくれる人。今後も独自路線の展示に期待。